2010年(平成22)6月

カルメル 霊性センターニュース

聖パウロ　　聖ペトロ

6月　　255号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

――バルバロ訳――

第十八章　聖なる教父たちの模範

1　私たちの模範

修道生活の真の完徳に輝いた教父たちの模範を考えなさい。一方、私たちのすることがどんなに小さな、無に等しいほどのものであるかを思いなさい。彼らと比較すれば、私たちは何者なのであろう？

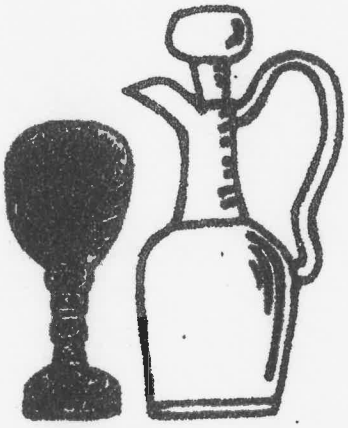
聖人たちやキリストの友人たちは、飢えと渇き、寒さと裸、働きと苦労、徹夜と断食、祈りと聖なる黙想、多くの迫害と侮辱のうちに主に仕えたのである（二コリント11・27参照）。

2　神だけを求めていた

使徒、殉教者、証聖者、童貞者、またキリストの跡に従おうとした人々は、どれほど多くの患難を耐え忍んだことであろう！彼らは、自分たちの生命を永遠に保とうとして、この世においてそれを憎んだ（ヨハネ12・25）。

教父たちは、砂漠においてどれほど厳しい犠牲の生活を送ったことであろう！どれほど長く思い誘惑に耐え、しばしば悪魔に悩まされ、どれほど熱心に不断の祈りを神にささげたことであろう！どれほど厳しい断食を行い、霊的な完徳に対してどれほどの熱意と奮発心をもっていたことであろう！邪欲を抑えるためにどれほど激しく闘い、神のみ前に、どれほど清く正しい意向をもっていたことであろう！昼は働き、夜は長い祈りのうちに過ごし、働いている時にも、内的な祈りを決してやめなかった。

心　の　泉



心の泉

神との親しさを生きるために
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd　　－６－

聖霊が
わたしたちのところに
来られるのは、

わたしたちを照らし、

わたしたちとともに
働きたいからです。

―幼きイエスのマリー・エウジェンヌ神父　ocd

おん父はイエスによってわたしを遣わされます。わたしの力だけでなく、神の恵みによって。この選びは洗礼の恵みの特権です、キリストのあがない主としてのみ業にわたしたちを参与させるのです。「あなたの言葉によってわたしは網をおろしましょう。」いつからはじめましょうか。今日から。完全になるのを、多くのことができるようになるのを待つ必要はありません。ありのままのわたしは主が遣わすところに行くのです。なぜなら**「大きな富、それは聖霊にとらえられ、聖霊によって変えられる」**ことなのですから。

聖霊よ
わたしが必要とし　わたしが望み
あなたのみ業を実現するためにあなたが必要としている
あなたとの親しい絆を　わたしのうちに造ってください

愛の霊の息吹がわたしのうちに入り
わたしを捕らえ
生かしてくださいますように。

伊従　信子
ノートルダム・ド・ヴィ

『神と親しく生きる　いのりの道』
聖母の騎士社、２００９

働き蜂

九里　彰

スペインにいた時、冗談半分に、「日本ではストライキをすると、前以上に働くんだってね」とよく言われた。彼らにすれば、ストライキをしたら、その後は、労働時間が短縮されるはずで、前以上に働くなどとんでもないということであった。

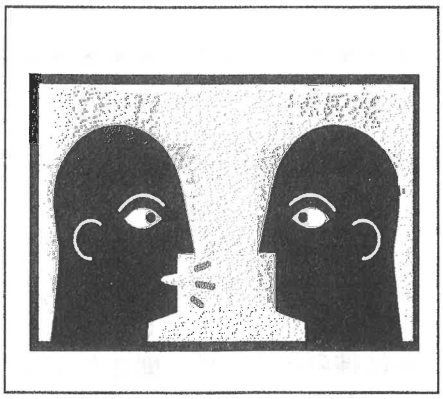
日本では、ストライキの形態がヨーロッパとは違うこと、納期を遅らすことは会社の信用問題となり、必然的に長く働かざるを得なくなるといった説明は、なかなか納得してもらえなかった。こういう問題に明るい人であれば、もう少し上手に説明できたかもしれないのだが、これも翻って考えてみれば、日本人のメンタリティーそのものがそのようなシステム、社会構造を取らせていると言えなくはない。

先日も、某地方公共団体で働く人から、いわゆるサービス残業などでは巧妙に書類を操作し、労働基準法を満たしているかのようにするのが慣例であると聞かされた。以前より仕事量が増えているということなのだろうが、もう少しすべてを簡略化し、毎日の生活にゆとりをもたらすことができないものだろうか。OA機器の普及が、かえって私たちの仕事をせわしいものにし、多くの人々を過労に追い込み、うつ病や自殺を引き起こしているとしたら問題である。勤勉は美徳などとは、言っておられない。非人間的な労働環境は、人間の尊厳を傷つけるものである。スペインの町では、―10年前のことだが―、週日でも夕方になると家族連れが町なかを散歩していた。日本ではついぞ見かけない光景であった……。

だが、神さまも休まれるのである。

天地万物は完成された。第七の日に、神はご自分の仕事を完成され、第七の日に、神はご自分の仕事を離れ、安息なさった。この日に神はすべての創造の仕事を離れ、安息なさったので、第七の日を神は祝福し、聖別された。（創 2：1～3）

ヘンリ・ナーウェンの旅路の糧（133）



正しく生きることと正しく話すこと

神の証し人となるには、この世において神の現存の生きたしるしとならなければなりません。生きることは、話すこと以上に重要です。なぜなら正しく生きることは、常に正しく話すことになるからです。私たちが隣人を心から赦すならば、私たちの心は赦しの言葉を語るでしょう。私たちが感謝しているならば、感謝の言葉を語り、私たちが希望と喜びに満ちているならば、希望と喜びの言葉を語るでしょう。

言葉が先走り、言っていることを私たちがまだ生きていないならば、私たちはたやすく二重のメッセージを送ることになります。二重のメッセージを送ること、すなわち言っていることと行なっていることが一致していないことは、私たちを偽善者とします。私たちの生活が正しい言葉を話し、私たちの言葉が私たちを正しい生活へと導きますように。

(0620)

イエスは心の清い人

神のいとし子であるイエスは、清い心を持っています。清い心を持っているということは、一つのことだけを望むことです。イエスは、天の御父の意志を行なうことだけを望みました。イエスが行ない、話したことは何であろうと、神の子の従順から行ない、話したのです。「私が言っていることは、すべて父が私に教えてくださったことである。私をお遣わしなった方は、私と共にいてくださる。私をひとりにしてはおかれない。私は、いつもこの方の御心に適うことを行なうからである」(ヨハ 8:28-29)。イエスの心の中には、いかなる分裂も、いかなる裏表のある動機や隠れた意図もありません。イエスにおいては、神と完全に一致しているがゆえに、完全な内的一致があるのです。

イエスのようになることは、心の清い人となることです。その清さはイエスが与えてくださるものであり、私たちにまことの霊的ヴィジョンを与えてくれることでしょう。

(0529)

(九里　彰訳)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

キリストの聖体の祭日

「わたしを記念するためにこれをおこないなさい」（ルカ22・19）

一人の若者がある祈りの集会に心をひかれ、毎木曜日に集会が行われている教会のホールに行きました。最初の半時間は楽しくて覚えやすいメロディの音楽をただ楽しんでいました。しかしまもなく聖書を読むために壇上に人が上って行くのを見ました。彼は神のみことばを聞きたくなかったので耳に指を入れ耳を塞ぎました。主はどうなさったでしょうか。一匹のハエが飛んで来て彼の鼻にとまりました。彼は頭を前後に動かしたり振ったりしました。ついに彼は一方の耳から指を抜き、ハエを追い払おうとしました。この４秒ほどの間に何かが起こりました。聖書を読んでいる人は最後のセンテンスを読みました、「耳のある人は聞きなさい」。このことばはこの若者の耳に熱い油のように流れ込みました。そこには２千人もの人がいました。しかし彼はこのことばが自分のために言われたように感じたのでした。彼はもう一方の耳からも指を出し、神のみことばの教えを聞きました。今日、この同じ若者は人々を神に導く祈りのグループの中で音楽の宣教の責任者になっています。メッセージははっきりしています：人間のからだは救いの道具です。

教会がキリストの聖体の祭日を祝うとき、教会というキリストのからだの部分であるキリスト者の生命において、イエスのからだと血の役割を黙想するように招かれています。ご托身そのものによって、イエスは人間のからだを通して多くの人達に救いをもたらそうとしたことを示しました。彼の使命はこの真理を更に確かのものにしました。彼は人々に触れ、そしてその人たちは癒されました。彼の唾が目の見えない人を見えるようにしました。彼が手をのばすと嵐は静まりました。彼は悪霊に命じるのにご自分の声を使いました、すると悪霊は犠牲者から離れて行きました。イエスは腕に子供たちを抱き、祝福しました。ラザロの墓の前で泣くイエスは、完全な人間として人生で最も感動的な瞬間の一つです。受難と死においてイエスは人類に救いをもたらすためにご自分のからだそのものを一粒の麦のように砕かせました。

キリストの聖体の祭日は、イエスの救いの使命が彼のこの世でのいのちと共に終わったのではないことを悟るように私たちを招いています。イエスは、彼のからだとしての感謝の祭儀を通してまた彼の神秘体としての教会を通して、彼の使命をまだ続けています。聖なる感謝の祭儀の間イエスは共同体、司祭、みことば、パンとぶどう酒の形で現存されます。カルワリオにおいてイエスのからだと血はそれぞれ分離されました。ミサにおいてイエスのからだは御血と結び合わされ、そして復活を宣言します。ミサを祝った後でもご聖体の中に現存し続けます。太陽にあたって座る人が知らず知らずのうちにビタミンＤを受けるように、ご聖体の前で時を過ごす信者は気づくかどうかに関係なくいのちを与えるビタミンを受けます。イエスの救いの使命は教会の中で続いています。教皇ヨハネ・パウロ二世は、『教会にいのちを与える聖体』の中で「聖体拝領のとき私たちがイエスを受けるだけでなく、イエスもまた彼のからだのメンバーとして私たちを受けるのです」と書いています。私たちは生きて動いている聖櫃なのです。私たちのからだは聖霊の神殿となり、私たちはキリストのからだを建てるために能力を全て使うように招かれています。　　(Sr. Paulina)

年間第十一主日Ｃ　ﾙｶ 7, 36-8, 3

「だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさでわかる」(ﾙｶ 7, 47)。

上掲の節は、古くは、「この人の罪、その多くの罪は赦された、多く愛したのだから」(講談社バルバロ訳)と訳されることが普通でした。しかし、この訳は、人間が「多く愛した」、だから、神から「多く赦された」との解釈に導く危険が潜んでいました。確かにギリシャ語原文を文字だけを追って直訳すると、この訳は間違いとは言い切れません。しかし、このイエスのお言葉を含む文脈とは、また、「ルカによる福音」全体のメッセージとは共鳴していません。それで、現在では、上掲のように訳されることが多いのです。たとえば、「この女のあまたの罪は〔もう〕赦されている。〔それは、〕この女が多く愛したことから〔わかる〕」〔岩波書店版 佐藤 研訳〕などのように。この訳で強調されるのは、神の無償、無前提な愛からの赦しであり、その赦しの秘めている人間の中に愛を創造する力です。

今日の福音とは対照的な例を「マタイによる福音」十八章二十三節以降に読むことができます。それは、主人の憐れみによって多くを赦された僕が、自分に負債のある同僚の比べ物にならないくらいの少量の借金を赦せなかった話です。この話の頂点は、「わたしがお前を憐れんでやったように、お前も自分の仲間を憐れんでやるべきではなかったか」(ﾏﾀｲ 18, 23)とのお言葉にあります。無償の赦しの中に真実に生きているしるしは、自分も無償で赦すように招かれている、この招きに誠実に答える義務があると言うよりは可能性が開かれていることではありませんか。無論、罪人である人間の心の中では、このような愛の能力は麻痺しています。しかし、このような自分が、イエスから赦されている、しかも、十字架の死の値を払って赦されている、イエスの赦しは創造的なものです。「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください。御救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください」。清い心、確かな霊をわたしの内に創造するのは神の無償の愛のみができることです。「自由の霊」。自由、それは、自由奔放に気ままに行動できることではなく、それは、どのような状況、環境の中でも、愛を探し、愛を生きる心の構えではないのでしょうか。この神が創造してくださっている心の構えに誠実に生きること、それが真実に赦されている者のしるしなのです。

ルカ渡辺幹夫

年　間　第　１２　主　日　　(C)

イエス：“神からのキリスト”　　（ルカ９：18-24）

今日の福音は、イエスの弟子の資格について述べています。イエスの弟子となることはイエスに従って生きることです。ただ単に、イエスのように生きることです。イエスは、はっきりと神からのメシアであるご自分の役割と、弟子たちの役割の意味を正確に述べておられます。イエスが弟子たちに、ご自分を誰だと思うかと尋ねられた時、ペトロは、信仰告白して答えました。“あなたは神からのキリスト”、“神からのメシア”、“神から油を注がれた方です”と。イエスはすぐに”キリスト“、”メシア“、”油注がれた者“と言う特別な言葉の意味を、弟子たちが正しく理解しているかを確かめられました。イエスによると、“油を注がれた”、”メシア“、キリスト”という言葉の本当の意味は宗教指導者の下で拒絶され、軽蔑され、そしてついには死に追いやられてしまうほどに苦しむことです（ルカ９―22）。これが“神から油注がれた者”、”神からのメシア“、”神からのキリスト“の定義です。

“神からのキリスト”であるイエスと、自分が“メシア”であると自称している人たちとの違いは何でしょうか。それは真の“神からのキリスト”は三日目に死から復活されたことです。真のキリストの復活は神ご自身によって与えられた証拠、認可、受容です。イエスの弟子たちが、イエスを神からの”キリスト“であると信仰告白した時、弟子たちにその本当の意味をしっかり理解するよう望まれました。”メシア“、”キリスト“の真の意味を示し、知らしめ、もう一度はっきりと説明なさった後で、弟子たちに一つの挑戦を提起なさいます。”わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。“(ルカ 9-23) これはそれまでイエスと生活を共にしてきた弟子たちに教え話されてきたことです。ここから目標に向かって、イエスは弟子たちの養成プログラムを展開なさいます。もし弟子たちが、神からの”キリスト“、神からの”メシア“であるイエスの弟子であることを理解しているならば、彼らは必然的に（1）自分を捨て、(2) 日々、自分の十字架を取り、(3) イエスに従うようになるでしょう。キリストの弟子たちに求められた、自分を捨て、日々十字架を背負って生きることには厳然とした動機、意味がある筈です。キリストに従って生きることを望む原動力は、わたしのために命を捨ててくださったキリストご自身にあります（ルカ9―24）。

キリストの弟子であるために、またキリストに従って生きるために、二つの事が要求されます。a) キリストのために自分を捨てること、b）キリストのために十字架を担うこと。今は個人の権利や自由が強く主張される時代です。自分を捨て、キリストの弟子として生きることは忘れられている規範です。それは回想、黙想会や聖週間のような日常生活から離れた時間のためだけの話題となっています。十字架を担うことは犠牲を行うことです。もう一度心に刻みましょう。犠牲を行うことの動機は“イエスのため”、イエスを心から愛するためです。

(Sr. Paulina)

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊　みことばのひびき　＊＊＊

年間第十三主日Ｃ　ﾙｶ 9,51-62

「イエスは、天に上げられる時期が近づくと、エルサレムに向かう決意を固められた」(ﾙｶ 9,51)。

この節から、「ルカによる福音」のイエスは、エルサレムへ、受難へ、十字架へと、まっすぐに進んでゆきます。「決意を固められた」と言われるイエスの心の内が垣間見えてくる出来事がこれに続きます。イエス一行がサマリア人から歓迎されなかったときの、イエスの心の動きと弟子たちのそれとの相違が露呈するのです。ヤコブとヨハネが、「主よ、お望みなら、天から火を降らせて、彼らを焼き滅ぼしましょうか」と言った。弟子たちは、イエスを尊重していたからこそ、こう言ったのですが。「イエスは振り向いて二人を戒められた」、つまり、二人の言葉に不快感を覚えたのです。弟子たちとイエスとのすれ違いです。これまでも、イエスは、弟子たちを時間をかけて教え諭されてきました、しかし、この時より、「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい」(ﾙｶ 9,23) と言われたイエスは、いろいろの機会を活用して弟子たちを「わたしに従いなさい」の道に教育することになります。エルサレムに向かう旅は、弟子たちの訓育の道、そして、その弟子たちに続くわたしたちの育成の道でもあるのます。

「あなたがおいでになるところなら、どこへでも従ってまいります」と言う人には、「人の子には枕するところもない」と、イエスは応じられます。イエスへの従いは、人間が自分の発意、主導権で決めることではなく、恵みのうちに招かれる、この受動性に始まるのです。しかし、受動性が、単なる受身に終わるのではなく、自分の意欲的選び、能動性に変えられてゆくのですが。別の人には、イエスの方から「わたしに従いなさい」と言われた。しかし、その人は、「父親の葬り」、当時の社会的倫理観で重視されていた子の義務を理由に、招きに応えることを躊躇します。また、別の人は、招きを受けても、「まず」と言って、家族の情を優先しています。しかし、問題は、子の義務、肉親の情を、イエスへの信従の招きとの競合関係にあると思っていることです。イエスは、何ものにも比べられない方でありつつ、また、何ものの中にも浸透し、新しい意義を与え、完成する方なのです。このイエスの意義、神の国の真相を把握してゆく道が、イエスへの信従の道なのでしょう。そして、わたしたちの信従の決意も固められるのです。

ルカ　渡辺幹夫

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（37）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

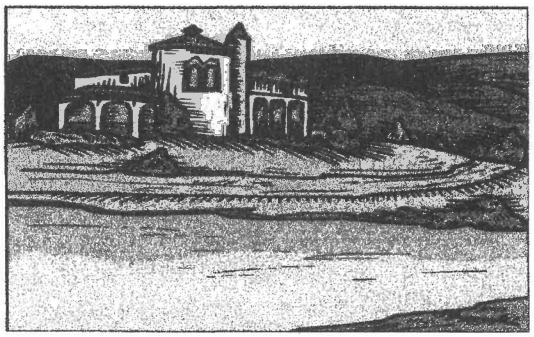
他の旅籠

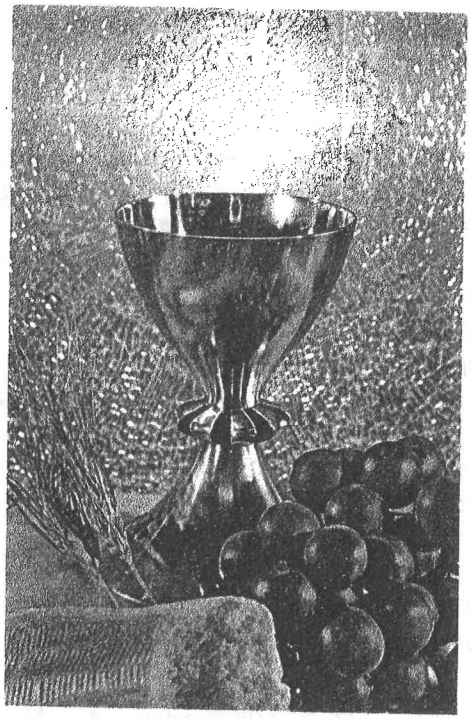
私たちは他の旅籠で起きた事件を知っていますが、名前までは分かりません。カスティッヤからアンダルシアへ行った時の話で、今回は、神の御母のペドロ修士が聖人のお供をしていました。ある川へやってくると、増水し、流れが強く、渡ることは不可能でした。そこには四人の馬子が待ちかまえていました。不思議な勢いがヨハネ修父を駆り立て、乗っている馬と共に、川の中に入りました。

流れに押し流されて下ってきた大きな丸太が、馬と聖人にぶつかり、水の中へ落とし、彼らを押し流しました。聖人はどうにか向こう岸へ着き、そこから修道士に向かって、彼を待つように、また川を渡らないように大声で言いました。それからすぐ近くの旅籠へ走って行きました。後日、彼はその時のことを、ラ・マンチュエラからハエンまでの別の旅で、マルティン修士に語ることになるでしょう。けれども、半レグア(約 3km)ほど離れたその旅籠で何が起きていたのでしょうか。忠実な福音書記者であるマルティン修士の語ることによれば、次のとおりです。

旅籠では、旅籠の主人の息子とそこにいた男との間に大ゲンカがありました。息子は、男に激しい一撃を加えたため、男は瀕死の状態にありました。

くだんの聖人、十字架のヨハネ修士は、彼の告解を聞きました。自分が某修道会の修道者であると叫びながら、彼が宗教を大声で誹謗するのではなく、罪を告白する機会が与えられたことを我らの主に感謝するよう、厳しく叱りました。そして聖なる十字架のヨハネ修父は、大きな危険をおかしてまで急いで川を渡ったのは、このけが人を支え、霊魂を救うために起きたのだと気づきました。なぜなら、彼はその二時間後に亡くなったからです。このことは、くだんの聖人がこの証人に物語ったことです。





6月6日(日)
キリストの聖体

わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。

(ヨハネ6・51)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

22. 十字架の聖テレジア・ベネディクタ(エディット・シュタイン) (1891-1942) ― その5

エディット・シュタインは、 1891年10月12日、ドイツ・ブレスラウの敬虔なユダヤ人家庭に、11 人兄弟の末娘として生まれた。この日は、その年のユダヤ教の暦では、「贖罪の日」に当たっていた。10代の頃に無神論者となったが、学業優秀であった彼女は、著名なフッサールのもとで哲学を学び、現象学を研究、博士論文は『感情移入の問題について』であった。1921年、友人宅でたまたま手に取ったアビラの聖テレジアの『自叙伝』を一晩で読破、これこそが真理であると確信し、1922年1月1日、カトリック教会で受洗。1933年10月14日、ケルン・カルメル会に入会し、「十字架のテレジア・ベネディクタ(十字架に祝されたテレジア)」という修道名を受ける。後に彼女は語っている。「十字架ということを、私は当時誰の目にも明らかになりつつあった神の民の運命として理解しました。キリストの十字架の意味を知っている者は、すべての人々の名において、その十字架を担わなければならないのだと考えたのです。」

ユダヤ人迫害激化のため、オランダのエヒト・カルメル会に移るが――彼女は、姉妹たちを危険に陥れたくなかったのである――、カトリックの洗礼を受けていた姉のローザとともに逮捕された。真の平和のためのいけにえとして、また、イスラエル民族のための犠牲として、自己をイエスの聖心に奉献し、1942年8月9日にアウシュビッツで殉教者としてその命を捧げた。ユダヤ人移送列車と強制収容所内で Sr.テレジア・ベネディクタを目撃した人々は、彼女が平静であったこと、子供たちの世話をし、平和の雰囲気を人々にもたらしていたことを証言している。

『十字架の学問』をはじめとする数多くの深遠な著作を書き残し、それらは多くの言語に翻訳されている。1987年5月1日列福。1998年10月11日列聖。1999年10月1日、スウェーデンの聖ブリジット、シエナの聖カタリナとともに、ヨーロッパの守護の聖女として宣言される。

十字架の聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)

—— 祈り ——

あなたの玉座は、主の右側に
主の永遠の栄光の王国の中にあります。
世の初めから おられた神のみことばよ。

あなたは、すべてのものの中で最も高い玉座を治めておられます、
ご変容の姿のうちに。
あなたは、地上での使命を果たされたのですから。

私はそれを信じます。あなたのみことばが私に教えてくださいましたから。
このように信じるとき、それは私の喜びとなり、
祝福された希望がそこから花開きます。

あなたのおられるところに、あなたの愛しておられる者たちもいるのですから。
天国は、私にとって、光栄ある父の国です。
あなたと共に、私は御父の玉座にあずかりましょう。

永遠なるお方、すべてのものの造り主、
聖なる三位一体は、命のすべてを包み、
静けさに満ちた王国をすべてご自身のために保っておられます。

人間の霊魂の深奥の部屋は、
三位一体が好んで住まわれる場所、
地上における天の玉座です。

敵の手から、この天の王国を解放するために
神の御子は、人の子として降ってこられました。
彼は、身代金としてその血をお与えになりました。

槍で貫かれたイエスのみ心のうちに
天の王国と地の王国は、ひとつに結ばれました。
ここに、命の泉そのものがあるのです。

これは、神なる三位一体の心であり、
全人類の心の中心でもあります。
神から注がれた、私たちの命の源です。

それは、神秘的な力をもって、私たちを近づけます。
御父のひざの上で、私たちを安全に守り、
聖霊を豊かに注ぎます。

（「私はあなたと共にいる……」より 前半部分）

＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊ ＊

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites（Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL http://www.ignatius.com）の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

（注）タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは烏に命じて、そこであなたを養わせる（Ⅰ列 17:3-4）」ということばに由来しています。

（泰阜カルメル会訳・編）

電車の　車両スタンド

お告げのフランシスコ姉妹会　　Ｓｒ．熊田　照子

つい昨年の１２月末まで、うちの幼稚園の宗教クラスを受けもっていた頃のことです。通勤の道程は、久が原からバスで東急電鉄の田園調布駅まで行き、それから２電車の乗り換えをして、神奈川県に近いこれまた東急田園都市線のつくし野駅まで、１週間に２日通っていました。そんな時、私はいつも思っていたことなのですが、もし私のクラスを舞台とするなら、舞台に出るまでは全部楽屋裏で、出来るだけ緊張感を解いてゆったりした方がいい　と思っていましたので、余程切迫感がない限り、(例えば昨日は来客その他で、今日の予習が何も出来なかった　などなど) 約１時間半かかる道中は、できるだけ楽しいお休み所にしよう　と意識していたのでした。(この意識と無意識との違いは、精神的にリフレッシュ出来るか出来ないかで、大変大切なものと思います)

例えば品川駅を通る時の景色にはこんなのがあります。車庫に入りきらない車両、補修が必要な車両、あるいは第一線を退いて、もしかしたらこれから先、鉄道博物館に飾られるかもしれないような古い車両が、電車の車庫に、あるいは走行に無関係な数本の空いたレール上に止まっているのです。これらの、見るからに重い感じの古い車両を見ると、ああ、これもいづれは解体かな、と思わざるをえません。
その傍を、東京発九州行きの新幹線がワッとものすごい音と速度で通り過ぎるのです。機関車は流線型、風圧を思う存分飛ばしてアアッと思う間に姿は消え去ってしまうのです。鉄道マニアではないし、しかも機械オンチの私でさえ、ただのカッコいいだけではなく、人間の知恵と活動力のカッコ良さに感歎してしまいます。

そこで、改めて考えさせられるのですが、“信仰の道はただ要領の良さだけではない。むしろ他人の尻ぬぐい的な、ときには合理性に反して時間のかかる、自分のしたいことも放棄するとか、マイナスのものをいただくとか……自然的に見れば一見面白くなく、プラスが引っ込んでしまうようなこと、自己中心的に考えれば損をしてしまうことなどなのです。イエス様のされたこと、教えられたこと　とはこのようなことなのだ、“自分の損得のためではなく、人のためになること。愛のためなら時間の制約はない。これなのだ。”ということを、改めて考えさせられるようにました。
“イエスの十字架の死　と復活”は、客体的に見るのではなく、自分の生きることに照らし合わせて黙想していきたい　と思っているこの頃です。

バルトロメ・エステバン・ムリリョ
「幼い洗礼者ヨハネ」

6月24日(木)
洗礼者ヨハネの誕生(祭日)

「さて、月が満ちて、エリザベトは男の子を産んだが、

この子には主の力が及んでいた。」

(ルカ1・57、66)

繰り返す　　石原淳子

本を読んでいて、筋道にはさほど関係のないものであるのに、心に留まり心に残る文の一節があります。　先日もそのようにして目をとめたひと言がありました。　「生きることの大半は繰り返しだ」という言葉です。

感動的に美しいというものでもなく、思わずうなってしまう金言というものでもないのですが、しかし、考えてみれば全くその通りと云うほかない言葉であり、なかなかの深さへと誘うようではあるのです。

確かに私たちは同じことを延々と繰り返します。朝起きて顔を洗い歯磨きをする。同じ食卓の同じ位置で食事をする。同じ時刻の同じ道、同じ駅、同じ電車、プラットホームの大体この辺り。　繰り返しは、日常生活の時間配分だけではありません。　同じ本を読み返す、ひとつの曲をエンドレスにして聴き続ける、同じ山に幾度も登る、一通の手紙を紙がすり切れるほど繰り返して読む、お気に入りのジーンズはぼろ屑のようになっている。　毎年の誕生日の祝い、命日の追想、世界中で繰り返されるミサ聖祭、修道院の聖務日課、百万回も唇に昇る小さな人々のひとり一人のめでたしの祈り。　愛する者の名前、「お母さん」という呼びかけの声。　スポーツ選手、ダンサー、演奏家たちのトレーニングの同じ動き。　歴史は繰り返すと云い、流行は繰り返すときます。

私の親しい友人は、何と３０年もの年月、毎週欠かさず水曜日に同じメンバー四人で麻雀をしています。驚くほかはないのですが長い間には二人の人が夫を亡くし、一人は病気のために半身の自由がきかず、又もう一人はいわゆる通常の知覚を保つことは叶わなくなってきているといいます。　それでも四人は助け合い補い合って、これまでにおよそ１５００回もの水曜日麻雀を繰り返しているのです。私には想像を絶する或る能力と誠実の賜物と思えて尊敬の念を覚えます。

繰り返しは人間だけではありません。道に沿うあの樹、あの花も毎年芽吹き蕾をつけ、花開き、色づき、葉が舞い散ります。春夏秋冬の四季も順番が変わることはありません。　およそ生命とは、確かに繰り返すことをもって生きることを成し遂げようとしているかに思えます。

実は、この一文を書くべくいつものように考えあぐね、思いに引き廻され、瞑目したり瞠目したり黙想したりと、鉛筆を握りしめノートを真っ黒にしてい

る日々の最中に、敬愛する大切な仲間の訃報が入りました。長い年月、労苦を共にしてきたかけがえのない同志です。　私は身動きもできず、言葉も失い、内なる何かがもぎ取られ、茫然自失となりました。　その中で、はたと気付かされたことがあったのです。

彼の人生は決して繰り返されることはないのだということ。更には彼の生きた時間も出来事も全部すべてが、世界にたった一回だけのもの、ひとつだけのものであることを。

人が生まれ死んでいくことは、私たちの繰り返しの最たるものであるのですが、しかし、それは決して繰り返すことのできない誕生であり、一つ一つの時間であり、死であるのです。　「生きることの大半は繰り返しだ」ということも本当ですが、また一方、生きることの全ては繰り返し不可能なのだということも本当なのです。その意味ではひとつとして同じ歯磨きはなく、１５００回の麻雀もひとつとして同じものはないのです。

生きることの全ては、天におこなわれ地にもおこなわれるみ旨なのだということを、よくよく知っているにもかかわらず、私は今またそのことに心からの驚きをもって気がつきます。　「繰り返し」も「繰り返し不能」も皆このままでいいのだと。

かつて、それこそ繰り返し繰り返し頁を開いた愛する書「回想のシモーヌ・ヴェイユ」の中のＧ・ティボンの美しい文を、今　深く想い出しています。

≪より高い世界においては、特に何も起こることはないのだ。なぜならそこでは常に同じことが起こっているからである。夜明けがくる毎にいつも同じさまで、純に清らかに生れでてくる太陽がそうであるように。同じ岸辺の間を終わりなく流れてやまない川がそうであるように。二人の人間を死に至るまで結びつける真実の愛がそうであるように。何ものによっても弱められず、力を失わず、正しい者の上にも正しくない者の上にも雨を降らせる神の愛がそうであるように≫

いのちの言葉　5月

わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。
わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。
（ヨハネ 14・21）

受難を前にして、最後に語られるイエスの話の中心は、「愛」です。御子に対する御父の愛について、イエスは語られ、また、愛するとは神の掟を守ることだ、と教えてくださいました。

イエスの話に耳を傾けていた人々は、旧約の「知恵の書」に見られる言葉、「愛は知恵の命じる掟を守ることである」[1]、「知恵は自分を愛する人には進んで自分を現す」[2]に通じるものを感じたことでしょう。特に、「主は信じる者にご自身を示される」（知恵の書　一・二）という箇所は、「わたしを愛する人にわたし自身を現す」というイエスの言葉と共通するものです。

今月のみ言葉は、私たちに伝えています。「御子を愛する人は、御父から愛される。また御子からも愛され、御子はその人にご自身を現される」と。

わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。

イエスがご自身を現してくださるためには、私たちも「愛する」必要があります。

もし心の中に、この愛が生き生きと満ちあふれていないなら、私たちはキリスト者とは言えないでしょう。時計は電池が切れると、止まって、時間を示すことができなくなり、ある意味で、時計と呼べないものになってしまいます。キリスト者の場合も同様です。私たちが、いつも愛そうとしていないなら、キリスト者とは言えないでしょう。というのは、イエスの掟のすべては、「神を愛し、隣人を愛する」という唯一の掟に集約されているからです。隣人の中にイエスを見て、イエスを愛することです。

愛は、感情だけのものではありません。行動として具体的な形を取り、兄弟への奉仕となって現れるもの、特に身近な兄弟に対して、人目につかない、ほんの小さな行いから、始められるものです。

シャルル・ド・フーコーは言っています。「誰かを愛する時、私たちは相手の中にいます。愛をもって相手の中に入り、相手の中で生きるのです。もはや自分の中で生きるのではなく、自分から『離れ』、自分の『外で』生きるようになります」[3]と。

このように愛する時、イエスの光が私たちの中に差し込みます。「わたしを愛する人にわたし自身を現す」と、イエスは約束されたからです。愛こそ、光の源です。愛することによって私たちは、愛でおられる神をより深く知ることができます。

---

[1]知恵の書六・十八参照
[2]知恵の書六・十二参照

[3] シャルル・ド・フーコー「Scritti Spirituali, VII」（ローマ 1975 年）P 110 参照

それにより、私たちは一層愛することができるようになり、隣人との関係も深められていきます。

愛することによって神を知る、というこの光は、真の愛のしるしです。私たちは、この光をさまざまな形で経験することができます。光は、私たち一人ひとりの中で、異なる色をもって現れますが、共通する特徴を備えています。神のみ旨が分かるよう私たちを照らしてくれたり、私たちに平和と安らぎを与え、いつも新たに神のみ言葉を理解できるよう助けてくれたりします。私たちは、このあたたかな光に力づけられて、確実にすばやく、人生の道を歩むことができるでしょう。途中で、生活に影が差し込み、どう歩みを進めればよいか分からない時や、暗闇に包まれて立ちすくむ時が来るかもしれません。そのような時も今月のみ言葉は、光が愛によって灯されること、歩みを照らす小さな光は、小さくても具体的な愛の行い（祈りやほほ笑み、ちょっとした一言など）により得られることを、私たちに思い出させてくれるでしょう。

夜、自転車に乗っている時、こぐのをやめるとライトが消えて、真っ暗になります。しかし、もう一度ペダルを踏み始めると、電流が流れてライトがつき、道を照らします。

私たちの生活も同じです。何の見返りも求めずに与える真の愛をもって、再び愛し始めるなら、信仰と希望の光が再び心に灯ることでしょう。

キアラ・ルービック

フォコラーレの創立者キアラ・ルービックが、２００８年３月に帰天した後、彼女が過去に残した解説を「いのちの言葉」として取り上げます。今月の言葉は、１９９９年５月に発表されたものです。

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

体験談

最近、体調がすぐれない日が続き、特に家庭の中で、自分から先に愛するのが難しくなりました。「私は具合が悪いのだから、理解してほしい。もう少し手伝ってほしい」という思いが強くなり、家族が応えてくれないと、責める気持ちが湧いてきました。私の方から一歩踏み出して、やり直さなくては・・とわかっていても、その力がなく、闇の中にいる自分を感じました。そんな時『いのちの言葉』の「暗闇の中にいても、愛するなら光が戻る」「愛は、人目につかない、小さな行いからも始められる」という言葉にハッとしました。大きなことをする力はなかったけれど、「人目につかないほんの小さな」という言葉に、勇気をもらいました。そして決心して、何日も前から子供部屋の机の上に置かれていた、飲みっぱなしのカップを取りに行きました。見るたびに苦々しい思いが湧いてきて、「甘やかすのは教育上よくないから、自分で気づいて洗うまで、絶対放っておこう！」と心に決めていたのですが、それをそっと台所に運んで洗いました。その時、自分自身のこだわりから解放されて、自由になり、心に小さな光が灯ったのを　はっきりと感じました。「愛さない心は、電池の切れた、止まった時計のよう」とありますが、止まっていた私の心が、もう一度動き始めた瞬間でした。（M）

いのちの言葉の集い

東京近辺の各地でいのちの言葉を読み、生活の中で実践した体験の分かち合いをしています。ご興味のある方は下記までご連絡ください。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：フォコラーレで検索

http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito

日に幾度すぎゆく雨や沙羅の花　大嶽青児

ちちははの死後の歳月青田風　本宮哲郎

カルメル会の企画案内

カルメル会の企画案内

東　京

上野毛霊性センター　'１０年５月～'１１年３月

黙想企画　＊＊　聖テレジア修道院（黙想）＊＊

１．一泊聖書深読　　新井延和神父

2010年　（毎回金曜日　夕食～土曜日１６時）

②　　６月１８日～１９日
③　　９月１０日～１１日
④　　１１月１２日～１３日

①終了致しました。

２．奉献生活者のための黙想会

２０１０年

A	７月２０日（火）夕食～７月２９日（木）朝	松田浩一神父
B	７月３１日（土）夕食～８月　９日（月）朝	福田正範神父
C	８月１１日（水）夕食～８月２０日（水）朝	中川博道神父
D	１１月　２日（火）夕食～１１月１１日（木）朝	福田正範神父
E	１２月２７日（土）夕食～　１月　５日（水）朝	中川博道神父

３．木曜黙想会　（毎回木曜日１０時～１６時）

２０１０年間共通テーマ　《道》

６月１７日	主よ、あなたの道を教えて下さい	福田正範神父
９月１６日	真福八端を生きるイエスの道	今泉　健神父
１１月１８日	神の国への道	ベルナルド神父
１月２０日	荒野をゆく道	中川博道神父

東　京

4．金曜黙想会　カルメルの聖人（毎回金曜日１０時～１６時）

２０１０年度

７月　９日	カルメル山の聖母	福田正範神父
１０月２９日	アビラの聖テレジア	ベルナルド神父
１２月１７日	リジューの聖テレジア	今泉　健神父
2011／２月２５日	十字架の聖ヨハネ	中川博道神父

5.「社会人のための心の休息」―日常のキリスト教霊性を求めて―

(毎回金曜日　20時～　土曜日１５時)　　新しい企画

松田浩一神父

２０１０年度

③　６月２５日（金）～２６日（土）
④　７月　９日（金）～１０日（土）

※①、②終了。

尚、この企画は社会人（働いている人）の霊的・心的修養とキリスト者の召命を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心にしながら、行っていきます。金曜日の仕事帰りにも気軽に参加してください。参加希望者は、前日の木曜日迄に、聖テレジア修道院に申し込んでください。

6.青年黙想会（男女）　　中川博道神父・神学生

１１月２０日（土）１６時　　～２３日（火）１４時

7.召命黙想会（男女）　　中川博道神父・神学生

１０月９日（土）１６時　　～１１日（月）１６時

8.祭日のミサに与かるために　　東　京

【クリスマス】・・チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時
２０１０　　１２月２４日（金）～２５日（土）《講話なし、夕食なし》

9.特別黙想会　　伊従信子ＮＤＶ　　テーマ：「私は神を見たい」

５月２８日（金）２０時～３０日（日）１６時
（２８日は夕食を済ませてご参加ください）

１０月１５日（金）２０時～１７日（日）１６時
（１５日は夕食を済ませてご参加ください）

１０.待降節黙想会
２０１０/１２月　３日（金）夕食なし～５日（日）昼まで　　指導：カルメル会士

電話でのお問い合わせは午前９時から午後４時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんのでなるべくFAX・はがき・Ｅメールでお願い致します（お返事はいたします）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25
聖テレジア修道院（黙想）
TEL　03－5706－7355
FAX　03－3704－1764
e-mail:mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

✢

「カルメルの霊性に親しむ」

ーカルメルの霊性をとおして イエスとの出会いの道を探しますー

担当：中川 博道（カルメル修道会）

＊どなたでも いつからでもご参加ください＊

2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日） ≪10:30～12:00≫	夜のクラス（金曜日） ≪19:15～20:45≫
了　5月18日	了　5月21日
6月15日	6月18日
7月 6日	7月 2日
10月26日	10月29日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

聖書講座

「キリストとの親しさ」

―出会いの神学―

キリストと出会った人々の姿を 聖書をとおして辿ります

担当：中川 博道（カルメル修道会）

＊どなたでも いつからでもご参加ください＊

2010年 予定表

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

朝のクラス（火曜日）	夜のクラス（金曜日）
≪10:30～12:00≫	≪19:15～20:45≫
6月 1日	6月 4日
12月 7日	12月 10日

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

東　京

✝

「キリスト教の基本を学ぶ」

―洗礼準備の為、又キリスト教の基本を学びなおす為に―

対象：どなたでもご参加ください

指導：中川 博道（カルメル修道会）

場所：カトリック上野毛教会（信徒会館）

2010年 予定表

朝のクラス≪10:30～12:00≫　夜のクラス≪19:30～21:00≫

いずれも金曜日

	月日	テーマ	聖書箇所
1	5月14日	「聖書への親しみを持つことから」 天地創造の物語を読む　了	創世記1章1節～2章3節
2	5月28日	「あなたは誰？」（1） 聖書の人間へのまなざし　了	創世記2章3節b～2章25節
3	6月11日	「あなたは誰？」（2） 聖書の人間へのまなざし	創世記2章3節b～2章25節
4	6月25日	「人間の問題性」（1） 人間存在の根源的なずれとゆがみ	創世記3章
5	7月 9日	「人間の問題性」（2） 兄弟性のゆがみ「カインとアベル」	創世記4章
6	7月23日	「信仰の祖 アブラハム」 信仰を生きるとは	創世記12章
7	9月17日	「人間の問題性からの脱出」 聖書のライトモチーフとしての「脱出」というテーマ	出エジプト記1章～3章
8	10月 8日	「人間の問題性に関わる神の本質」 神の名前	出エジプト記3章14節をめぐって
9	10月22日	「イエス・キリストに出会う」 最初にイエスに会った人々	ヨハネ1章35節～42節
10	11月 5日	「福音が語るイエス・キリスト」 天地人への関わりを生きるキリスト	
11	11月19日	「イエス・キリストの自己理解」 イエスの名の由来 イエスの残されたものをとおして	マルコ10章45節
12	12月 3日	「キリストに近づく」 ―洗礼と永遠の命―	ヨハネ3章1節～21節
13	12月17日	「教会；キリストに呼び集められた人々の集まり」(1) キリスト者の原型としてのマリア	ルカ1章26節～38節

<お問合せ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

東　京

木曜黙想会

テーマ：　道

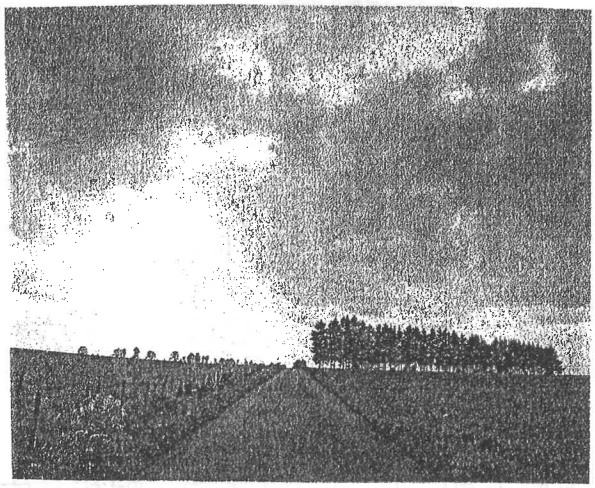
主よ、あなたの道を教えて下さい

日　時：2010年6月17日（木）　10:00～16:00

指　導：福田　正範師（カルメル会司祭）

場　所：上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会　費：￥３５００（昼食付）



お問合せ：TEL.03-5706-7355

お申込み：メール、FAX.またはハガキで

Ｅメール：mokusou@carmel-monastery..jp

FAX:　０３－３７０４－１７６４

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

東　京

金曜黙想会・カルメルの聖人

「カルメル山の聖母」

光輝く清いおとめ
　カルメルの美よ、私たちの母よ、お受け下さい、
　　あなたの子らの　ささげる愛と賛美の歌を。

日　時：2010年7月9日（木）

　　１０：００～１６：００

指　導：福田　正範師（カルメル会司祭）

場　所：上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

会　費：￥３５００（昼食付）

お問合せ：TEL.03-5706-７３５５

お申込み：FAX０３－３７０４－１７６４

　　または、Ｅメールにて

　　mokusou@carmel-monastery.jp

『社会人（働いている人）のための心の休息』
―日常のキリスト教霊性を求めて―

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、霊的同伴・霊的指導を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

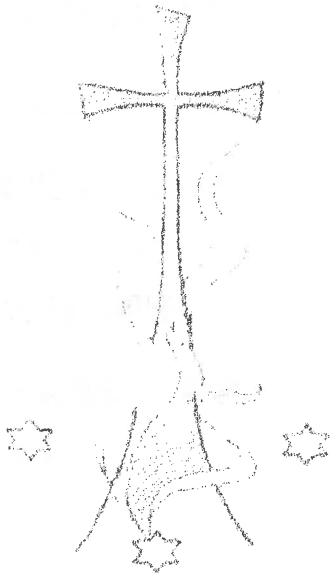
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点（霊的理解）を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴（一人30分）を行います。
- メソードの一つとしてコーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行われるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】　6人

【開催日】

⑤　6月24日（金）～26日（土）
⑥　7月　9日（金）～10日（土）



※①～④終了

（毎回金曜日　20時（夕食なし）～土曜日15時）

【参加費】　各回5，000円

【霊的同伴】　松田浩一神父（カルメル会士）

【申込み方法】　参加希望者は、前日の木曜日16:45迄に、下記の聖テレジア修道院（黙想）へFAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2－14－25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）
Tel　03－5706－7355、　Fax　03－3704－1764
E-Mail:mokusou@carmel-monastery.jp

東　京

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、福音を生きることです。　皆様のご参加をお待ちしています。

＊＊＊＊＊

＊　日時：2010年　6月　18日（金）18時～19日（土）16時

（曜日が金曜～土曜日となりましたのでご注意下さい）

＊　場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家

＊　指導：新井延和師（カルメル会司祭）

＊　会費：￥7000

＊　持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

（タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります）

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生いたち」（奥村一郎著　￥1050）

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。

お問合せ・お申込は、TEL.　FAX、ハガキにてお願いします。
〒158-0093　世田谷区上野毛　2-14-25
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)
Tel.03－5706－7355
Fax.03－3704－1764

‘１０年５月～‘10年12月まで　黙想会案内　（宇治カルメル会）

１. 聖書深読

一日（午前１０時から午後４時）

６月２６日（土）	新井延和神父
１０月３０日（土）	九里　彰神父
１２月１１日　（土）	新井延和神父

２．一般のための黙想

一泊二日（午後５時～午後４時）

７月１０日（土）～１１日（日）	マリア　喜びの人	渡辺幹夫神父
９月２５日（土）～２６日（日）	幼子の平和	九里　彰神父
１１月２０日（土）～２１日（日）	神の国が始まる	新井延和神父

３，水曜黙想（午前 10 時～午後 4 時）

６月　９日（水）	司祭と聖体	渡辺幹夫神父
７月２１日（水）	カルメル山の聖母マリア	新井延和神父
９月１５日（水）	福音と共にキリストに従う道	Sr．ポーリン
１０月１３日（水）	アビラの聖テレサ	アロイジオ神父
１１月１０日(水)	三位一体のエリザベット	伊従信子師
１２月１５日（水）	御言葉は人となった	九里　彰神父

４.待降節黙想（午後５時～午後４時）

２０１０年１２月　４日（土）～１２月５日（日）　　渡辺幹夫神父

京　都

5.聖テレーズの黙想（午後５時～午後４時）

9月30日（木）～10月　1日（金）　伊従信子師

6.奉献生活者の黙想（午後５時～午前９時）

2010年度

8月　2日（月）～8月11日（水）　新井延和神父

8月18日（水）～8月27日（金）　九里　彰神父

10月12日（火）～10月21日（木）　九里　彰神父

12月27日（月）～　1月　5日（水）　新井延和神父

7.青年のための黙想（午後４時～午後５時）男女性のため

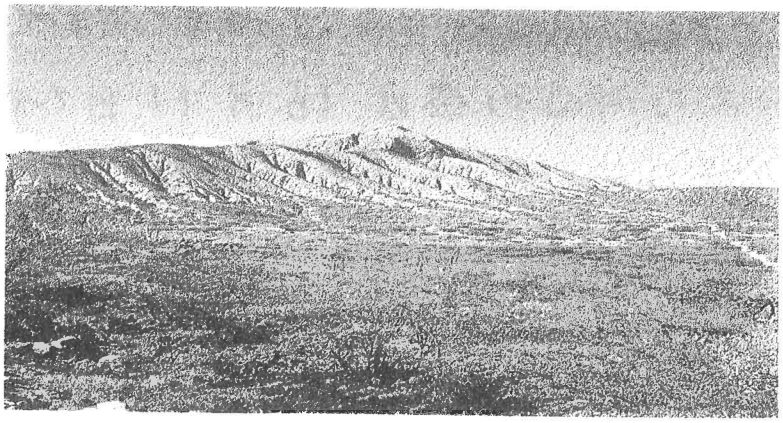
11月　6日（土）～11月7日（日）　今泉　健神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

＊申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけＦＡＸあるいはハガキで
お名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話で
お申し込みの場合、なるべく午前９時～午後５時の間にお願いいたします。
受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも
後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
TEL　0774-32-7016
FAX　0774-32-7457
e-mail　teresiauji@mountain.ocn.ne.jp



「カルメルの霊性に学ぶ」

～十字架の聖ヨハネの霊性～

1）テキスト：『カルメル山登攀』（ドン・ボスコ社）

（いつからでも参加できます。）

2）日時：毎月一回　１４：００～１５：３０

６月２５日（金）第２部１１章～１２章

７月１４日（水）第２部１３章～１４章

3）講師：九里（くのり）　彰神父（カルメル会）

4）場所：カルメル会宇治修道院　信徒会館集会室

≪宇治カルメル霊性センター≫
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
Tel：0774(32)7456　Fax：0774(32)7457

カルメル会宇治修道院の祭日ミサと講話の御案内

1　イエスの御心の祭日（6月11日〈金〉）

時間：午前10時～11時半。

(1) 午前10時よりミサ。

(2) 午前10時45分より＜イエスの御心＞の講話。

場所：カルメル会宇治修道院（修道院聖堂）。

2　カルメル山の聖母の祭日（7月16日〈金〉）

時間：午前10時～12時。

(1) 午前10時よりミサ。

(2) 午前10:45より＜カルメル山の聖母＞の講話。

(3) 望む方は、スカプラリオの着衣式を行ないます。

場所：カルメル会宇治修道院（修道院聖堂）。

＊いずれのミサ司式は松田浩一神父（カルメル会士）です。
また、費用は献金とします。

【所在地・連絡先】　〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山39-12
男子跣足カルメル修道会宇治修道院
TEL 0774-32-7456　FAX　0774-32-7457
E-mail　teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

【交通機関】①　JR奈良線　六地蔵駅下車　徒歩15分
タクシー乗り場あり。
②　京阪六地蔵駅　タクシー　7分
③　京都市営地下鉄　六地蔵駅　徒歩15分

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」
～都会の中の一日静修～（２０１０）

この会は、現代の忙しい社会の中にあって、また都会の中にあって、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」(マタイ２８：２０)と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみてはいかがでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、『混沌の時代を生きる道筋を探して』としました。

このテーマを通して、聖書のみ言葉やそれを生きるカルメルの聖人たちの言葉を通して、キリストの光を受け、混沌の時代を生きる私たちが、生きるための道筋を探していくことができますように・・・

第6回	6月26日（土）	真福八端を生きる道	今泉健神父　（上野毛修道院）
第7回	7月19日（月） 祝日	カルメル山登攀の道 ～十字架の聖ヨハネの示した道～	九里彰神父　（宇治修道院）
第8回	9月18日（土）	貞潔で、貧しく従順な方イエスに従う歩み	Srパウリナ （宣教カルメル修院）
第9回	10月30日（土）	小さき道、幼いイエスの聖テレジア	Sr.ベアトリス （宣教カルメル修院）
第10回	11月23日（火） 祝日	主が教えてくださった新しい掟の道、 『私が愛したように』	三上和久神父　（三馬修道院）

※第１回　～5回終了

＊　時間　AM10:00～PM4：00
＊　場所　カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分　＊聖テレジア幼稚園隣接
＊　参加費　1,000円
＊　持ってくるもの　聖書、筆記用具、ロザリオ、弁当
＊　定員　約30名
＊　プログラム　　10：00～ 祈り・導入・黙想
　　10：30～　講話【1】
　　～（赦しの秘跡または面接）
　　12：15～　昼食
　　～（赦しの秘跡または面接）
　　13：30～　講話【2】
　　14：45～　ミサ
　　15：30～　茶話会・分かち合い
　　16：00　　終了

申し込みは、下記の住所へハガキかFAXで、氏名･住所・TEL、（所属教会）を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆　名古屋カルメル霊性センター
〒456－0062　名古屋市熱田区大宝4－5－17　カルメル会日比野修道院　FAX 052-671-1825
一日静修係　〒465－0058　名古屋市名東区貴船3－2115　小林　厚･晃子
TEL・FAX052-701-3685

２０１０年度名古屋聖書深読会

第１回　５月１日（土）　了　　新井延和神父（宇治修道院）

第２回　１０月２日（土）　　新井延和神父（宇治修道院）

○　時間　午前１０時～午後４時

○　場所　カトリック日比野教会
地下鉄名城線日比野下車、徒歩約５分　＊聖テレジア幼稚園隣接

○　参加費　￥１０００

○　持ち物　聖書・筆記用具・ノート・昼食等

＊　毎回、事前に「名古屋教区ニュース」でお知らせします。

＊　申し込みは、開催日の３日前までにFaxまたはハガキで下記へお願いします。信徒の方は、所属教会名も記載下さい。

＊　対象は、信徒、未信徒の別を問いません。キリストの教えに関心のある方なら、どなたでも構いません。

☞　申し込み先　　名古屋カルメル霊性センター
〒456-0062　名古屋市熱田区大宝４－５－１７
カルメル会日比野修道院
FAX０５２－６７１－１８２５
または
〒465-0058　名古屋市名東区貴船３－２１１５
小　林　　厚・晃　子
TEL/FAX０５２－７０１－３６８５

聖書深読センターのご案内

1　東　京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

2　宇　治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧下さい。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち２箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

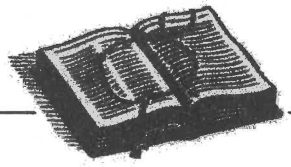
1　朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くＢ５用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解読が冊子になって送られる。
費用：６ヶ月18,900円（４、７、10、１月に納入）　継続の場合は１６,９００円
講師：九里彰師（奇数月）　新井延和師（偶数月）
問い合わせ：〒163-0278　東京都新宿区西新宿２-６-１新宿住友ビル
私書箱２１号　朝日カルチャーセンター通信講座部
電話03-3344-2527（直通）

2　ミニ深読

グループで２、３時間かけて聖書深読法の一部分を行います。
聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。
遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはＳｒパウリーナが指導に行くことも可能です。
問い合わせは「聖書深読センター」事務局　Ｓｒパウリーナまでご連絡下さい。

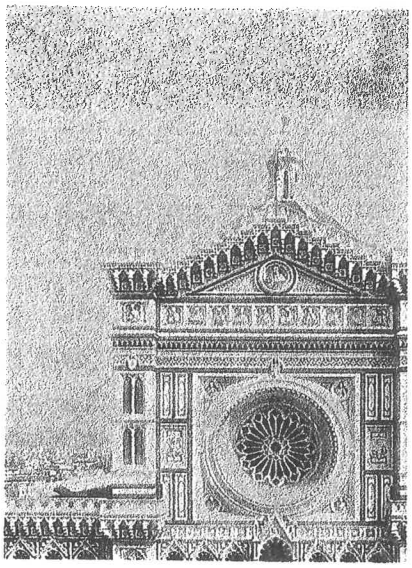
◎　聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。

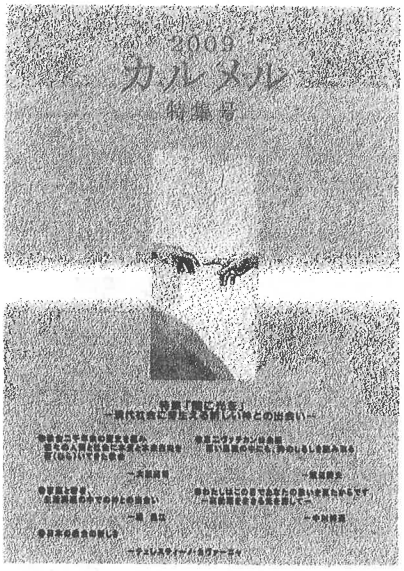


聖書深読センター
〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山39-12カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
所長：奥村一郎神父　　事務局長：新井延和神父　　連絡先：Ｓｒパウリーナ
ＴＥＬ　0774-32-7016　　ＦＡＸ　0774-38-2543
Ｅメール　carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

「観想」を読む－





雑誌「カルメル」NO336 （2010年春号）「今日の霊性」　新発売

馬屋の霊性（５）－「生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれる」Ⅰ　…高橋重幸

マリアの旅（７）　…中川博道

ある聖人の子供の祈り　…ペトロ・アロイジオ

「どこにお隠れになったのですか」(３)
－十字架の聖ヨハネに見る霊的旅路　…九里　彰

聖性への招き　十字架の聖ヨハネに導かれて（２）　…マリー・エウジェンヌ
編・訳　伊従信子

アビラの聖テレジアの霊性における自由（１）　…ベアトリス・デクンハ

「小さい道」の巡礼者（８）
テレーズの修練者―三位一体のマリー　…中山眞里

脳は宇宙ほど広く深い？　…森　みさ

愛の断章（１５）　…奥村一郎

雑誌「カルメル」NO335 （2009年冬号）「今日の霊性」

馬屋の霊性（4）ーイエスを拒む者と受け入れる者 …高橋重幸

マリアの旅（6） …中川博道

今日の歌（6） …ペトロ・アロイジオ

「どこにお隠れになったのですか」(2)
ー十字架の聖ヨハネに見る霊的旅路 …九里　彰

エリザベットの「魂のこだま」、ギット（１２）
ー「生きているのはもはやわたしではない　わたしのうちにキリストが生きておられる
…伊従信子

「小さい道」の巡礼者（7）
ーテレーズの修練者―三位一体のマリー …中山眞里

聖性への招き　十字架の聖ヨハネに導かれて …マリー・エウジェンヌ
編・訳　伊従信子

「ヨハネの黙示録」をどう読むか
ーシスター今道に導かれて …谷口正子

愛の断章（１４） …奥村一郎

雑誌「カルメル」　2009年特集号　　発売中
「闇に光を」 ―現代社会に芽生える新しい神との出会い―

購読のご案内

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入（カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等）できます。定価は、一冊４６０円です。

●送付希望の方は、６００円【内訳　４６０円(＋送料１４０円）】を下記へお振込ください。

●また、まとめて御購入希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号・特集号【４６０×５＝２３００円】、送料分【７００円】）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：００１９０－４－１９５４５７　跣足カルメル修道会
（お問い合わせは、事務担当竹田まで。
ＴＥＬ（０３）５７０６－８３５６）

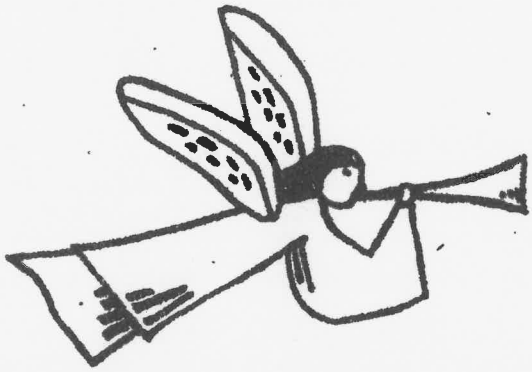
新刊紹介

●イエスの聖テレサ―霊的な人々の母（新刊）

聖テレサを知るための『入門書』。本書は、世界的な聖テレサの研究家である著者が描いた聖テレサの生涯、人となり、著作や思想を年代順に様々な角度から、きわめて総合的にそして興味深く語っている。祈りを通して、神と出会い、本当の自己を知るに至った聖テレサの生涯は、多くの人に各自の心の内奥の真の「自己認識」へと至るためのヒントを与えてくれる。聖テレサを知るための、またとない好著である。

定価：1,155 円（税込み）
著者：トマス・アルバレス
訳者：松田浩一　神父（カルメル修道会司祭）
判型：B6 判並製
ページ数：188 ページ
ISBN：978-4-8056-0473-1
発行：サンパウロ
カトリック書店：サンパウロ、ドンボスコ書店等でご購入できます。

諸所の企画案内



心のいほり

真命山霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

神の恵みを生きる（２０１０）

ノートルダム教育修道女会

※ お知らせ

２００９年・１０号より、諸所の企画記事を編集係りで集約して打ち込みました。

記載には注意を期していますが、詳細は、念のため、各問い合わせ先にご照会ください。

また、「投稿募集」ページも、隔月程度の掲載となります。どうぞご了承ください。

よろしくお願い致します。

編集係り

聞所の立画案内

心の小屋の

真命山霊性交流セミナー

ハーモニクス・ヒ・ヤト

ハーハルタム・ド・ヤト

神の愛が在生者る（２０１０）

ハーハルタム教育推進文会

※　紹介らせ

２００９年・１０号より，聞所の立画記事を

編集部の了集納して打ち込みをした。

記載には主意を期していきすが，誤編は，

後の方が，質問い合わせ先にご連絡ください。

また，「投稿募集」ページも，適月程度の

掲載ならいきす。どうぞご了承ください。

よろしく紹介い致します。

編集部の

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

内観黙想の予定表

2010年予定

K3　6／11(金)2時－6／17(木)2時
東京・小金井・聖霊会(6泊7日)

N2　6／22(火)2時－6／28(月)2時
滋賀・唐崎・ノートルダム (6泊7日)

Y2　7／15(木)2時－7／21(水)2時
神戸・須磨・ヨハネ (6泊7日)

H1　7／25(日)2時－7／31(土)2時
北海道・問合せ・聖ビアンネ会
(6泊7日)

N3　8／12(木)2時-8／18(水)2時
滋賀・唐崎・ノートルダム(6泊7日)

S1　8／23(月)2時-8／29(日)2時
長野・大鹿村・草々庵 (6泊7日)

M3 9／6(月)2時-9／12(日)2時
兵庫・売布・女子ご受難会(6泊7日)

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。申し込みは会場予約準備がありますので、 10日前迄に完了お願いします。

◎572－0001
大阪府寝屋川市成田東町3－27
「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父　FAX　072・802・5026
http://www.com-unity.co.jp/naikan
(ホームページ・アドレス)

予約に決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

お知らせ

2009年10月号より、掲載スペースの関係上、諸所の黙想企画記事を、編集部で集約して打ち込みました。
各御担当者の皆様どうぞご了承ください。

センターニュース編集係

真命山　2010年祈りの集いのご案内

通年テーマ：教父の祈りを学ぶ

祈りの集い（毎回午前１０時～午後２時半）

6月10日	聖アウグスチヌス	ダニエレ神父
7月　8日	聖アフラハト	Sr.マリア
8月	お 休 み	
9月 9日	聖エフラエム	Sr.マリア
10月14日	聖ベネディクトゥス	フランコ神父
11月11日	大聖グレコリウス	フランコ神父
12月　9日	ロマノ　メロドス	Sr.マリア

指導者
フランコ・ソットコルノラ神父
（真命山院長）
ダニエレ　サルティ・サルトリ神父
Sr.マリア　デ・ジョウルジ

申し込み先
865－0133
熊本県玉名郡和水町1391－7
真命山諸宗教対話・霊性交流
センター
TEL　0968－85－3100
Fax　0968－85－3186
E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

個人またはグループでの黙想会や研修会も
歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー講座・集いの案内　2010～11年　NEW

●キリスト教入門講座
金曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座
毎月第1・第3・第5火曜日　18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階。キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー　以下の土曜日、
9時30分～12時30分、岐部ホール4階404、19・20世紀近代・現代のキリスト教関係の思想・哲学・神学を考察します。思想史とキリスト教の関係に関心を持っている方、プログラム等に関してHP（文末）を見よ。
5月29日、6月12日、19日、7月3日、10日、24日、9月4日、10月2日、9日、16日

●坐禅会
月曜日　17時20分～20時10分
木曜日　18時～20時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。但し、10月18日、同21日、12月27日、同30日、祝日休み。3回座り、間に講話があります。どなたでも。初心者も歓迎。遅刻、不定期の参加も可。

●坐禅接心
（秋川神冥窟）　一泊2，400円程度
6月25日（金）20時30分～27日（日）10時
8月7日（土）20時30分～14日（土）10時
9月18日（土）12時30分～20日（月）10時
10月29日(金)20時30分～11月3日(水)10時
（上石神井）
2011年2月5日（土）8時30分～6日（日）15時30分
5，900円程度
（宝塚）7月31日（土）17時30分～8月6日（金）13時

●ミ サ　水曜日　17時10分～18時
上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂どなたでも。（但し、8月全休、10月20日、12月29日、祝日休）

●祈りの集い　下記の土曜日
13時30分～16時
上智大学内SJハウス第5会議室
黙想、講話、ミサがあります。
6月12日、7月10日、8月7日、9月4日、10月9日
11月13日、12月11日
ロザリオの祈り　同日16時10分～50分
クルトゥルハイム1階右小聖堂

●黙　想
【会社帰りの黙想】
毎月第2・第4火曜日　18時45分～20時
聖イグナチオ教会マリア聖堂、どなたでも。
(但し、祝日、8月10日、10月19日、12月28日は休。8月24日はクルトゥルハイム聖堂)

【お昼の黙想】　毎月第1・3火曜日
10時45分～12時　聖イグナチオ教会マリア聖堂　但し、8月3日、祝日休。

【水曜日】18時～18時30分
上智大学内クルトゥルハイム1階右小聖堂。どなたでも。但し、8月全休、祝日休。

【通う霊燥】8月21日（土）～　8月29日（日）、18時～20時45分　上智大学内クルトゥルハイム聖堂

●黙想会
6月5日（土）10時～6日（日）15時、9月11日（土）10時～12日（日）15時、上石神井。一泊5900円程度。

●アガペ会
下記の日、説明会（13時30分）と集い、ミサ(14時～18時)、上智大学内SJハウス第5会議室　6月20日（日）、10月16日(土)

上述日程等、変更の可能性があります。詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認ください。

●クリスマス会・ミサ　12月18日（土）16時30分
聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時岐部ホール4階　要申込。ミサ　12月23日（水）14時～
上智大学内クルトゥルハイム聖堂（80人限定）

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座（新年度）

リーゼンフーバー神父キリスト教
入門講座2010年～2011年
日時　毎週金曜日
　　18時45分～20時30分

5/28　新約聖書の神理解
　　－主なる父

6/ 4　祈りによる神理解
　　－神の偉大さと近さ

6/ 5～6　黙想会

6/11　救い主の役割
　　一人類の待望

6/18　神の国一イエスの告げる
　　メッセージ

6/25　イエスの生き方
　　一神に遣わされて人に仕える

リーゼンフーバー神父キリスト教
理解講座2010年～2011年
日　時　第1・3・5火曜日
　　18時45分～20時30分

各回のテーマ

(6月1日以降のテーマ【神】)

6/ 1　無限への問い
　　一理性による神理解

6/ 5～6　黙想会

6/ 15　世界の根源
　　一創造的自由・進化・摂理

6/29　人生のうちに働く超越
　　一神経験の多様な形

7/ 6　「私は在る」
　　一旧約における神の自己啓示

（7月20日以降、テーマ【人間への神の関わり】）

7/20　神の語りかけ一神の言葉：
　　預言と伝統

7/24　感謝のミサ（14時、上智大学内
　　クルトゥルハイム2階、80人限定）

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584

クラウス・リーゼンフーバー神父
102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス

電話　03－3238－5124{直通}
　　－5111{伝言}
Fax　03－3238－5056

上述日程等、変更の可能性があります。詳細等は、下記、リーゼンフーバー神父様のホームページでご確認ください。

※リーゼンフーバー神父様HPアドレスhttp://www.jesuits.or.jp/~j_risenhube/index.html/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

●「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの　霊性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります。

6月19日（土）
（次々回は、10月からの予定です）

講話　伊従信子・片山はるひ
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費　200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
177－0044
練馬区上石神井4－32－35
TEL（03）・3594・2247
Fax（03）・3594・2254
E-mail notredamedevie.japan@gmail.com
ホームページ（NEW）
http://www.ndv-jp.org/

カルメル会の霊性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ（いのちの聖母会）は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉献を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

神の恵みを生きる(２０１０年)

キリストがわたしに目を留められた。
私を最初に見つけたのは、
キリストだった。

日　時：　7月17日（土）15：00　～18日(日)15：00まで
場　所：　ノートルダム唐崎修道院（JR京都駅から30分）
指　導：　山内　十東　神父（御受難会）
対　象：　独身女性信徒
費　用：　2，000円
締　切：　7月12日(月)までに

申込み・問合せ

ノートルダム教育修道女会　Sr,桂川
520-0106　滋賀県大津市唐崎1丁目3－1
Tel　077－579－2884
Fax　077－579－3804
E-メール　karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎所在地
〒520－0106
滋賀県大津市唐崎1丁目3－1
Tel　077－579－7580
Fax　077－579－3804
E-メール　karainorind92@mbe.nifty.com

◎交　通
JR京都駅から湖西線で三つ目
「唐崎」下車。琵琶湖の方へ徒歩13分

◎日　程
A.　8日間の個人指導による黙想
初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

④　6月21日(月)～6月29日(火)
⑤　8月11日(水)～8月19日(木)
⑥　9月 3日(金)～9月 11日(土)
⑦ 10月 1日(金)～10月9日(土)
⑧ 11月 2日(火)～11月10日(水)

※①～③終了

B.　祈りの体験：週末3日間
(金曜日の夕食～日曜日の昼食)
【神との親しさの中で日常を生きるために】

2010年
⑪　6月25日(金)～6月27日(日)
⑫　7月 9日(金)～7月11日(日)
⑬　8月13日(金)～8月15日(日)
⑭　9月 3日(金)～ 9月 5日(日)
⑮　9月17日(金)～ 9月19日(日)
⑯ 10月 1日(金)～10月 3日(日)
⑰ 10月22日(金)～10月24日(日)
⑱ 11月 5日(金)～11月 7日(日)
⑲ 11月26日(金)～11月28日(日)
⑳ 12月10日(金)～12月12日(日)
(他の黙想会が行われている場合があります。)
※①～⑩終了。

C.　講話　黙想(奉献生活者のため)
(21)　5月27日(木)～6月3日(木)
植栗　彌 師 (イエズス会)

◎ 対　象：信徒、修道者、司祭、
洗礼を受けていない方、
どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者：
菊池 陽子(ノートルダム教育修道女会)
松本 佳子(ノートルダム教育修道女会)
その他　　若干名

◎ 申込み：
1) 名前　2) 住所　3) 電話番号　4) 希望日程(番号) を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」松本佳子へ申し込んでください。唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。
いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

その他：

◎ 受付(チェック・イン)：いずれの場合も、初日の15時から16時45分まで。

◎ 問い合わせ：電 話　または、E-メールを御利用下さい。

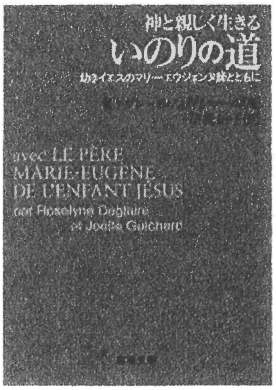
その他
グループでの黙想会や研修会のために唐崎修道院をご利用なさりたい場合は連絡下さい。

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

新刊紹介

●「テレーズを愛した人びと」

リジューの聖テレーズはカトリック教会で最も親しまれている聖人の一人。この書はテレーズが愛した人びとと、テレーズを愛した人びと11人が、どのように心の深みでテレーズと響き合っていたかを見つめながら、その11の愛の道を洞察しています。(聖母、十字架の聖ヨハネ、パウロ、三木露風、宮沢賢治、マリー・エウジェンヌ【ocd】、マザー・テレサなど)、それぞれの独自の愛が心にのこる一冊の本。 伊従信子著　 ￥1400 円＋税　 女子パウロ会 214 ページ



●「神と親しく生きる　祈りの道」

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

本書で師はわたしたちみんなが呼ばれている聖性の道を示し、神との一致への道へわたしたちを導いてくれます。神を探し求める時、闇につつまれた道程を歩まねばなりません。祈りの道を歩み続けるために光を求める人々の具体的呼びかけにマリー・エウジェンヌ師は自分の体験の実りを本書で分かち合ってくれます。

神との関わりを探し求めている人たちへ
送るメッセージ
現代の狂騒の中で、大切な何かを見失って
いないだろうか・・・　真理、善、美、生きる意味。

R.ドグレール／J.ギシャール＝著
伊従信子＝訳　　￥525　 聖母文庫　 207 ページ

『霊性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×２２０円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院　「霊性センター事務局」

「上野毛霊性センターへの献金」のお願い

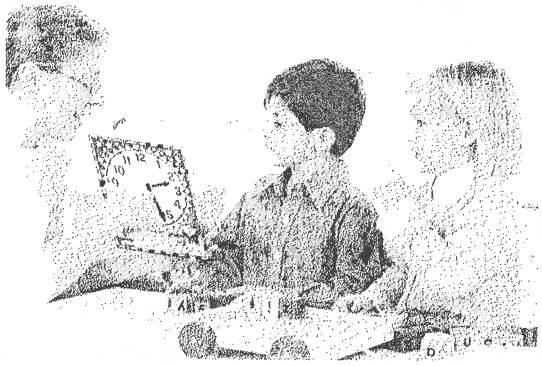
「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

＊ 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００１１０－４－２９７２５０

加入者名：　カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



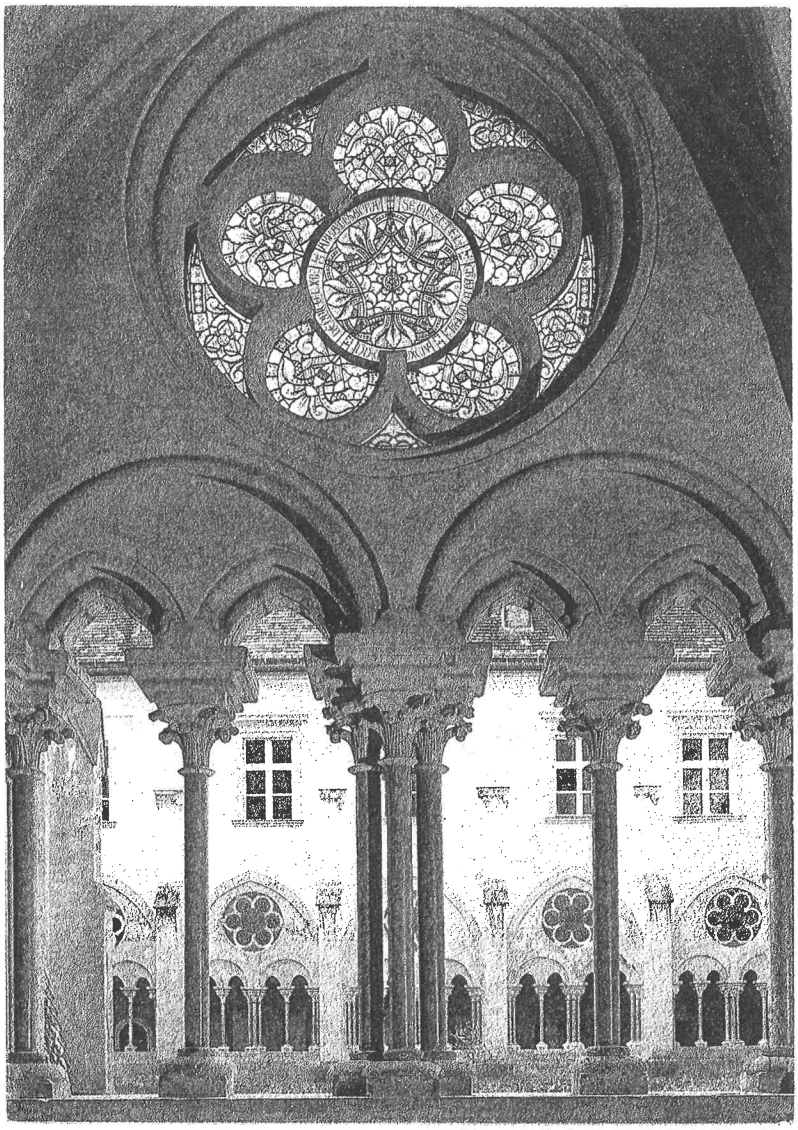
編集後記

先日、地方のある幼稚園を訪れた。三歳から六歳までの七十数人ほどの男の子と女の子が、年少、年中、年長と三つのクラスに分かれていた。

喧嘩する子や泣き出す子はほとんどなく、みな仲良く作業したり、遊んだりしていた。みな生き生きとして、可愛らしい。

子供たちを見ていていつも驚くことは、わずか三四歳で、すでにみなしっかりした人格を持ち、大人のやることは基本的にはなんでもできるということだ。もちろん大人に比べれば、すべて未熟で無知無能ということになろうが、神様の目から見れば、小さな子供も白髪の老人も大差ないのではないだろうか。

もちろんそれは、しつけや教育が不要であるということではない。それどころから、「三つ子の魂、百までも」と言うように、幼児期に形成された心が生涯、その人のアイデンティティーを形づくるのであるから、両親、幼稚園の先生はもとより、幼児に接するすべての大人にもその責任があるということになる。　(P. 九里)



あなたにもできる

「霊性センターニュース」の製本が、毎月第四火曜日（原則）に行われていますが、製本作業には、どなたでも参加していただくことが出来ます。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。一緒にご奉仕をお捧げしましょう！！

「7月号」製本日　　6月22日（火）　　上野毛教会信徒会館ホール１階
午後１時半頃から～

※参加希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL　03・3704・2171